



イノアックCSRレポート2018

INOAC CORPORATION
CSR REPORT
2018

目次

目次、編集方針	01	価値向上のために	19
企業理念、行動指針	02	お客様の声を活かした製品づくり	
ごあいさつ	03	サプライチェーンマネジメント	
会社プロフィール	04	社会とのコミュニケーション	21
会社概要		社会・地域貢献活動①	
事業紹介		社会・地域貢献活動②	
イノアックブランド		働きやすい職場づくり	23
技術革新		ワークライフバランスの推進	
【特集】社会的課題への取り組み	08	ダイバーシティの取り組み	
製品の品質向上への取り組み		人材育成	
介護福祉事業への取り組み		安全衛生・防災	
環境との調和	12	ガバナンス	27
環境マネジメント		コーポレート・ガバナンス	
環境負荷の低減		コンプライアンス	
化学物質の情報管理			
環境対応製品事例			

｜ 報告期間 ｜ 本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2017年度(2017年1月1日～12月31日)の活動実績をもとに作成

※2016年度とそれ以前、2018年の内容も一部含む

｜ 対象範囲 ｜ 株式会社イノアックコーポレーション単体の活動を中心に、一部国内外イノアックグループを含む

｜ 発行年月 ｜ 2018年8月(前回:2017年8月)

｜ 参考とするガイドライン ｜ ◎「環境報告ガイドライン2012年度版」 ◎ISO26000

企業理念

一本の大きな木を育てるより、 多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。



Innovation & Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団をめざします。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

行動指針

挑戦

自由に発想し失敗を恐れず行動します。

収益

継続的な事業発展と利益ある成長をめざし行動します。

CS

顧客満足度を高めるよう行動します。

チームワーク

個性を発揮し、信頼される行動をします。

誠実・信頼

虚偽を廃し、信頼される行動をします。

責任

責任を持って最後まで行動します。

ごあいさつ

Challenge & Innovation

～マテリアルで社会を豊かにする～

皆様には、平素より格別のご高配とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年之情勢を振り返りますと、国内経済は、企業の設備投資の拡大や堅調な個人消費などにより安定的な景気回復基調が維持されました。米国経済においても、継続的な雇用環境の改善による消費の拡大等、景気の安定が続いております。一方、中国経済においては政府による景気下支え策が奏功し景気の失速が回避され、東南アジア諸国においては、輸出の増加が景気の押し上げ要因となり、多くの国で成長が加速しました。

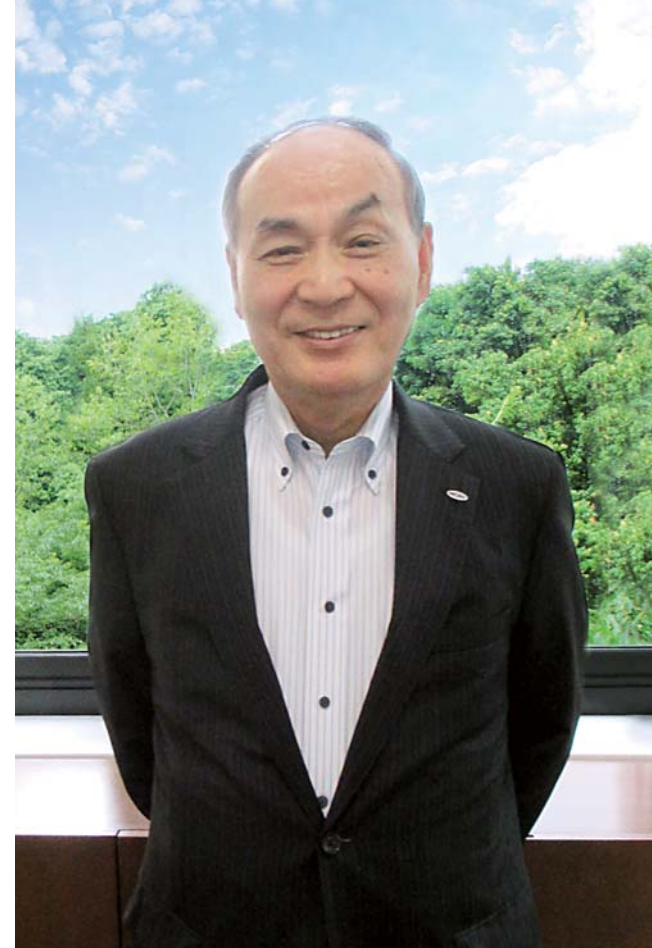
2018年度の国内経済は引き続き穏やかな成長が見込まれていますが、自動車業界におけるEV化や自動運転化への動き、AIやIoTの活用によるテクノロジーシフトといった技術革新が進み、これまでにない環境の変化がもたらされる100年に1度の転換期になると予測されています。また米国のNAFTAの再交渉など政策変更がもたらす影響、英国のEU離脱交渉の行方、中国における環境規制の強化など、我々を取り巻く環境は、依然として不透明な状況が続くと思われま

このように激しく急速な変化が予測される時にあってこそ「変化はチャンスである。チャンスをつかむためには果敢にチャレンジする」というスピリッツのもと“Challenge & Innovation”を全社テーマに掲げ、持続的成長への足許を固めグローバルな事業活動を展開して参ります。

当社の基本方針は「材料配合と開発をコアテクノロジーとした材料事業を基軸とする」「新規材料開発と新規プロセス開発を通じて自動車・産業資材で幅広くグローバルに材料と部品を供給し社会に貢献する」ことです。

当社が創り出す素材が、安全かつクリーンで地球環境に貢献し、また、人々の暮らしに豊かさと快適さをもたらす、持続可能な社会に寄与するよう、新たな素材の創出に向けて、常に挑戦“Challenge”し、常に革新“Innovation”していくことをめざします。

皆様には引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社イノアック コーポレーション

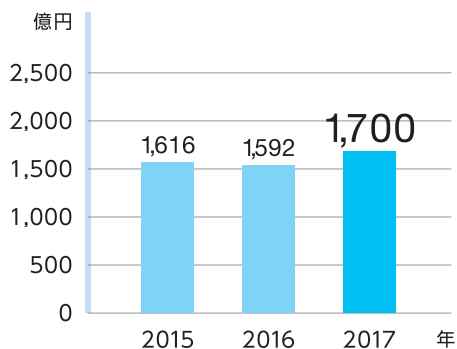
代表取締役 **翁 豊彦**

会社概要

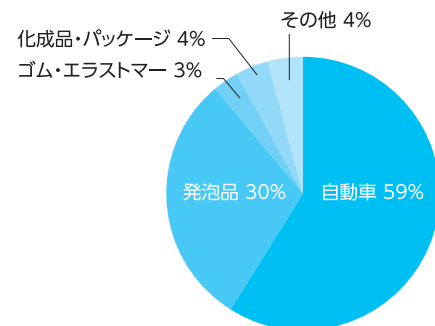
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
設立	1954年(昭和29年)
資本金	7億2,000万円
代表	代表取締役 井上聡一
社員数	1,806名(2017年12月)
売上高	1,700億円(2017年12月)
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、さまざまな場面に密着した製品を取り扱う
本社	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号(大崎ウエストシティビル4F)
事業所および工場	安城、桜井、南濃、新城、八名、豊橋、石巻、武豊、吉良、池田、大野、秦野
主要営業拠点	東京、中部、大阪、九州(支店)、札幌、東北、浜松、広島(営業所)
研究所	株式会社イノアック技術研究所
海外拠点	北米、中国、韓国、東南アジア

売上

■ 売上推移



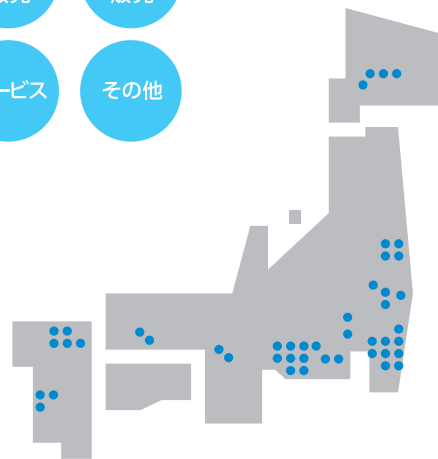
■ 2017年度事業分野別売上



ネットワーク

国内主要拠点

イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合併会社が北海道から九州まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。



井上護謨工業(株)
(株)イノアックインターナショナル
(株)イノアック技術研究所

〈系列会社〉
(株)北海道イノアック
(株)東北イノアック
(株)東日本イノアック
イノアックエラストマー(株)
(株)西日本イノアック
(株)九州イノアック

〈合併会社〉
BASF INOAC ポリウレタン(株)
(株)ロジャースイノアック 他

〈関連会社〉
(株)イノアック住環境
日本フクラ(株)
(株)イノアックリビング 他

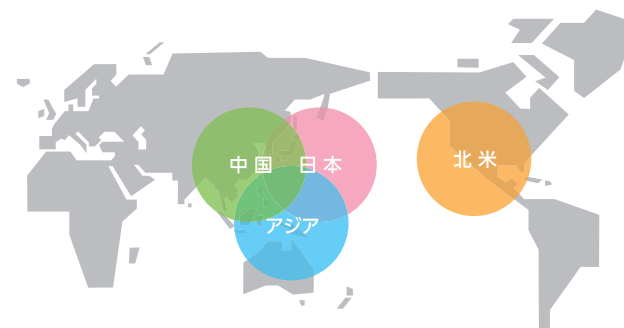
海外主要拠点

北米・アジアを中心として、全世界13の国と地域で研究開発から素材の加工・成型技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。




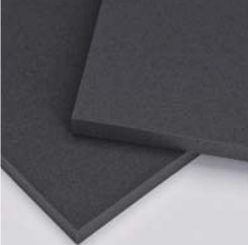
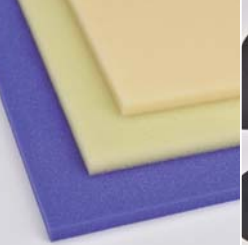
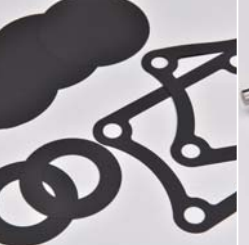

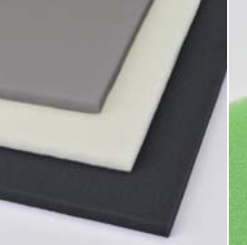

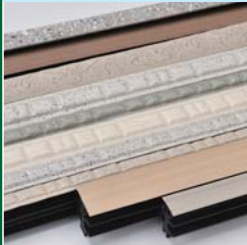



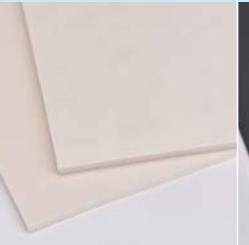








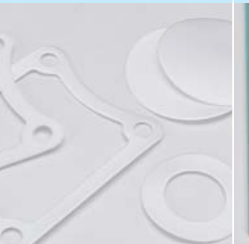






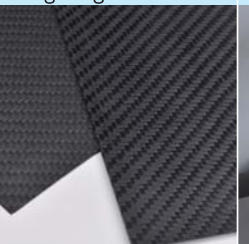
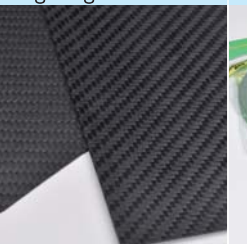

〈北米 19社〉
アメリカ 11社
カナダ 3社
メキシコ 5社
〈中国 45社〉
中国本土 43社
香港 2社

〈アジア 43社〉
タイ 15社
台湾 3社
インドネシア 5社
ベトナム 6社
韓国 1社
シンガポール 5社
フィリピン 2社
マレーシア 4社
スリランカ 2社



事業紹介

～さまざまな分野で活躍するイノアックの素材～

分野	建築土木	産業機械	輸送機器	物流パッケージ	電気製品	IT機器	医療福祉	生活用品
ウレタン	PORON® WA 	セルダンパー 	チェラスト 	カラーフォーム® 	PureCell® 	EXROTH® 	モルトブレン 	キッチンスポンジ 
ゴム	住宅用目地ガasket 	クローラーパッド 	軌道パッド 	ゴム車輪 	Ksil™ 	トランスクール® 	車椅子タイヤ 	ラテックススポンジパフ 
プラスチック	U-ポリパイ® 	ウォーターフレックス® 	リアスポイラー 	P-E-ライト® 	バフター® 	FOLEC® 	MAPS® 	インジェクションブローボトル 
複合材	サーマックス® 	サーマックス® 	軽量天井 	クールシステム 	Rigid Light-Carbon 	PureCell® 	Rigid Light-Carbon 	ガーデンテープ(イノタック) 

イノアックブランド INOAC brands

イノアックが生み出す素材をベースに、アイデアとテクノロジーで「機能」という付加価値を形にしてきました。デザインと機能性を両立したトータルインテリアをはじめ、多彩な素材を活かしたオリジナル製品や選び抜かれたセレクト商品で、私たちの快適な暮らしを支えています。



自転車用タイヤ、チューブの専門メーカーとして1926年の創立から今日まで培ってきた製造、事業経験、また30年以上の海外事業での経験を活かし、人々の生活を支えるタイヤから世界最高レベルのレースで勝利を勝ち取るためのタイヤまで、IRCブランドの製品を通じて人々の生活に新しい価値を提供し続けます。

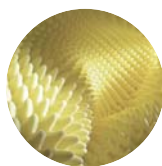
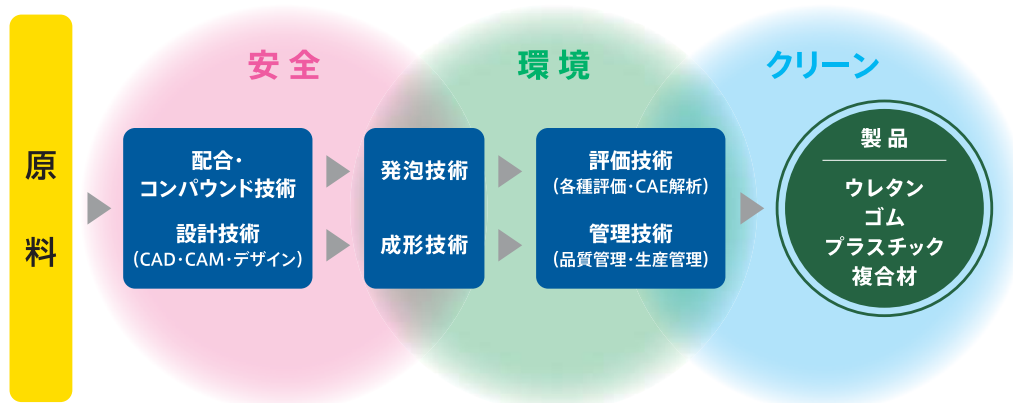
美しいフォルム、使い心地のよさ。高い品質をベースに心地よくつろぎ・やすらぎのトータルインテリアをめざした家具づくりをしているフクラ。デザイン・ MATERIALにこだわり、ナチュラルな質感や色・パターンを自由に使いこなしたコレクションは心地よい暮らしを彩ります。

エアロフローはイノアックならではの最先端の素材と加工技術を盛り込みながら、柔らかい感触と快適な寝心地にこだわった女性向け寝具シリーズです。女性の繊細な身体にフィットし、最上級の心地よい眠りへと導きます。

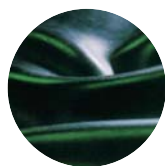
技術革新

研究開発

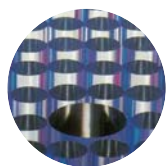
イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材料の技術を駆使し、自動車産業をはじめ情報通信・電子機器・産業資材・生活用品等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減、軽量、省エネルギー、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。



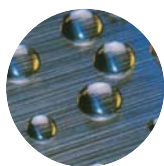
ウレタン



ゴム・エラストマー



プラスチック



新素材・複合材

研究・開発体制

イノアック技術研究所、グローバル技術本部を中心としてポリウレタン、ゴム、樹脂素材などの高分子材料技術をコア技術として、合成・配合技術、発泡・成型技術を磨き、独自の新しい材料開発を進めています。国内外の大学や公的研究機関との共同研究と技術開発も重要と考え、米国・中国・タイ等でもR&D体制を整備して、未来を見据えた新素材開発と応用開発研究も積極的に推進しています。

各事業部の技術部門では成形加工技術、材料の複合化技術を用いて、ウレタンフォームマスク、TURBOFLEXII、ニューイノコート、FOLECを利用した食品トレイの製品化、またウレタンフォームの耐熱性能、耐衝撃性能の高機能化を推進して、顧客ニーズに合った製品の開発を進めています。プロセス開発部門では独自のアイデアで自動化、コンパクト化した製造ラインを積極的に導入しています。



ITC JAPAN

株式会社イノアック技術研究所



ITC CHINA

蘇州井上高分子新材料有限公司



イノアックグループでは、お客様に安心して安全にご使用いただける製品の品質を保証し、ご満足いただける商品やサービスを提供するため、ISO9001を基本とした総合的なマネジメントシステムを導入し、お取引先様と連携して品質保証システムに継続して取り組んでいます。

製品における安全性を、当然備えるべき「基本品質」と考えています。コンプライアンス行動規準において製品安全性確保について定め、その実践のための体制を整備するとともに、本質的安全設計に向けた設計プロセスの強化に努めています。

基本方針

重要不具合0件

- ①重要品質問題ゼロ化
- ②品質点検の徹底、監査機能の強化
- ③新製品審査の充実

品質保証活動

1.品質保証活動を確実にする品質監査を実施

イノアックグループでは、品質マネジメントシステムのPDCA*サイクルを実施することで、プロセスの適合性・有効性を継続的に改善し、レベルアップを目的とした統合品質監査を実施しています。

※PDCA:Plan(計画) Do(実行) Check(評価) Action(改善)

2.品質確保のため製品審査を実施

イノアックグループは、製品の安全性を確保するため、新製品の開発段階で設計検証、デザインレビュー、妥当性の確認により、製品が関わって生じる危険防止対策の内容と、そのレベルが必要十分であることを客観的に評価しています。

新規性の高い製品に関しては、『新製品品質審査規定』に基づき上市可否判断を社長及び担当役員により審議しています。

3.生産における品質確保の監査を実施

イノアックグループは、製品の生産においては、材料、購入品の受け入れ品質が確保されているか、製品が設計品質に対して性能・特性を満足しているかを、『重要品質商品監査』に基づき、国内34拠点及び海外8拠点にて監査を実施して、品質確保に取り組んでいます。



4.安全性確保のための環境化学物質管理を実施

環境に影響する可能性のある物質については、化学物質管理システムを構築して、お客様からの問い合わせに対しても速やかに対応しています。購入材料・部品(国内/海外含め)の化学物質管理についても、『グリーン調達管理規定』に基づき管理を徹底しています。

5.品質向上確保のため品質教育を継続

イノアックの基盤となる一人ひとりの従業員の「仕事」の質は「製品」の質や「サービス」の質を決めるため、従事する従業員全員に対して、新入社員から基幹職まで品質教育を継続しています。

- **新入社員研修** 品質基礎知識研修、なぜなぜ分析など
- **品質管理教育** 品質管理入門、統計的品質管理手法、品質工学研修など
- **その他品質関連研修** 製品知識研修、コンプライアンス教育、化学物質管理教育など



6.海外現場力向上のためグローバル人材を育成

『地産地消の生産拠点展開と、経営の現地化促進』は会社経営基本方針であるため、海外経済の急速な発展とともに海外拠点での幹部候補の採用・教育・登用が急務になっています。

イノアックグループでは、海外拠点多い中国において、2013年からトレーナー養成、品質管理基本手法の普及など、毎年さまざまな教育を実施しています。昨年は現場力を向上するため、適切な工程管理、安定的な工程を維持できる人材育成を目的とした現場実習を全19拠点、201名の第一線現場管理者/候補者を対象に実施しました。今後中国での教育をモデルにして、タイ、インドネシア、ベトナムなどの海外拠点へ展開を行っていきます。



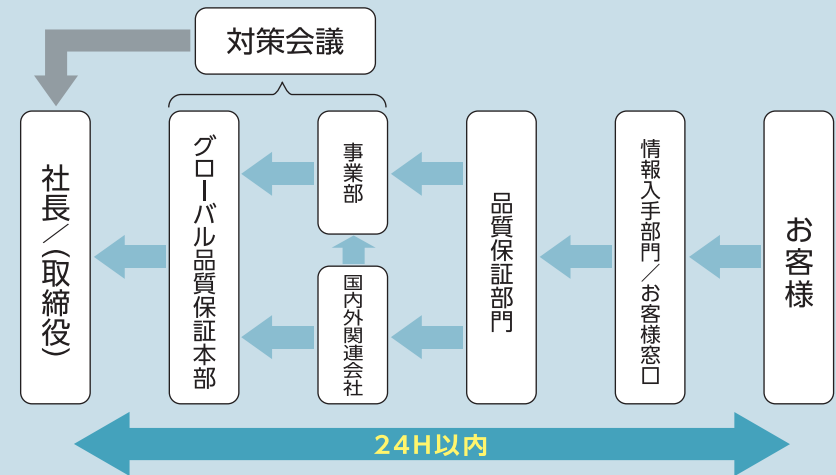
品質危機管理

重大クレームの早期発見・防止の対応体制を構築

重大な品質問題の早期発見と、同様の品質問題の未然防止に努めています。迅速かつ適切な対応を重視し、重大な品質問題の被害拡大を防止する為に「品質110番規定」を設けています。

迅速な不具合対応と共に、本品質機能部門を中心に事業部門の品質機能部門と連携し、クレームの早期発見と再発・未然防止を図っています。

■ 品質危機管理フローチャート



日本では1970年に「高齢化社会」に突入して以降、総人口における高齢化率は急激に上昇し、すでに65才以上の人口の割合が全人口の21%を超える「超高齢社会」に突入しています。今後も高齢者率は増大し、2025年には約30%、2060年には約40%に達すると予測されています。高齢化を起因とする「労働力人口の不足」「医療」「年金」「介護」などさまざまな社会問題が起きています。イノアックでは事業を通じて積極的に社会的課題に取り組んでいます。

保有不動産の介護福祉施設への積極的な転換

介護を必要とする高齢者の施設の不足も年々深刻となっており、イノアックはこのような社会の要請に応じ、保有する不動産を積極的に高齢者用施設に転換しています。2000年の愛知県名古屋市の居宅介護支援センターからスタートして、2016年には愛知県名古屋市にクリニック併設の高齢者向け住宅を開設し、これまで6つの高齢者向け施設を建設しています。施設の建物基礎部分や壁・天井に断熱性・遮熱性・防湿性を兼ね備えたイノアックの高機能断熱ボード「サーマックス」や、空気の泡で建物を包み込み優れた断熱性をもつ現場発泡断熱システム「フォームライト」を採用し省エネを促進する試みを行っているほか、空調、給湯、保温材のスペシャリストとして蓄積したノウハウを展開しています。また施設内ではオリジナル介護ブランド「すみれ」の製品シリーズや家具製品も活用しています。



ふわ・も



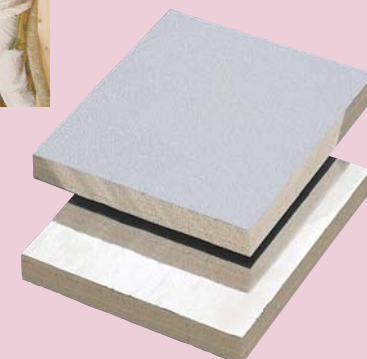
名古屋市のクリニック併設高齢者向け住宅



居室一例



フォームライト



サーマックス

イノアック介護製品ブランド“すみれ”「笑顔と笑顔でよりそうところ」の実現のために

イノアックでは1997年より体に接する部分のやさしさを追求し、品質にこだわった福祉・介護用具の開発が始まりました。2002年には日本褥瘡学会との共同開発により誕生した「リバーシブルPROマットレス」を発売。「ケアをされる方、ケアをする方それぞれに笑顔届けたい」という思いから始まり、2014年には福祉用具ブランド「すみれ」を立ち上げました。「すみれ」は“Smile”のローマ字読みをもとに名付けられました。柔らかさを基本とした製品づくりで、「笑顔と笑顔でよりそうところ」の実現をめざしています。



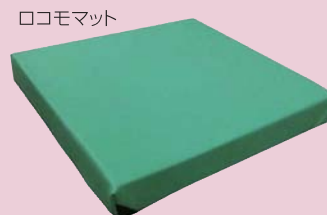
介護の現場で活躍する“すみれ”シリーズ



リバーシブルPRO
マットレス



体位変換
超通気サーティパッド



ロコモマット

VOICE

イノアックリビングからメッセージ

今後加速する高齢化社会に向けて

イノアックリビングでは、ゴム・ウレタン・樹脂素材メーカーとしての視点だけでなく、現場で使用する方の視点や利用者の方々の意見を取り入れ「本当に役に立つ商品、必要とされる商品」の商品開発を行っております。

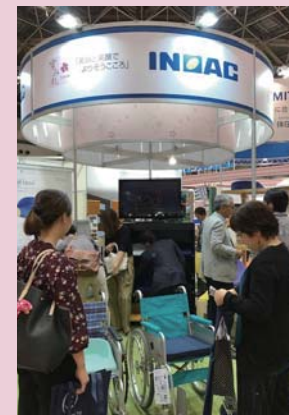
当社の「柔らかい素材群」は、高齢者の筋肉を補助し身体の負担を軽減します。例えば、自動車シートを応用した車椅子クッションSwimolは、体圧分散性と高耐久性を実現、座が安定し立ち上がりをサポート、ピュアセルの持つ吸盤効果とPEフォームの組み合わせで、必要な場所だけを衝撃から守る「ソフトウォールクッション」などに生かされています。今後も、Safety（安全性）& Comfortable（心地よさ）をキーワードとした商品を通じて、高齢化社会に貢献できればと考えております。

また、医療・介護事業は地域密着型事業と捉え、各地工場・事業所を中心に近隣の病院・施設への医療・介護用マットなどの製品を寄贈するなどし、地域との連携・貢献を進めて参ります。



代表取締役 石井 隆

国際福祉機器展に出展



2017年9月に東京ビックサイトで開催された国際福祉機器展H.C.R2017にイノアックリビングが出展しました。今回の展示の目玉はスムーズな立ち上がりを実現する「車椅子クッションSwimol（スイモ）」です。展示ブースでは共同開発者のリハビリテーション天草病院の先生による商品紹介セミナーが開かれ、多くの方が集まりました。イノアックのウレタンモールド成形技術を活用したSwimolはこれまでの市場にはない高品質クッションを実現しており、大きな反響がありました。

環境理念

イノアックは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切に
 する企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かな暮らしやすい社会の実現に貢献します。

環境方針

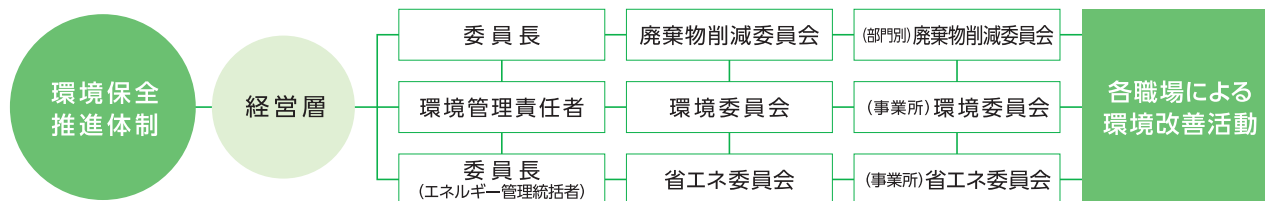
- ①環境関連の法規制及びその他要求事項を順守し、社会に信頼される事業活動を行います。
- ②地球温暖化防止のため省エネルギーなどのCO₂排出の低減活動を推進します。
- ③循環型社会に貢献できるよう省資源・廃棄物削減・リサイクルの活動に積極的に取り組みます。
- ④環境影響の可能性がある化学物質を適切に管理し、リスクを抑えて環境保全を図ります。
- ⑤環境に優しい製品の開発を積極的に推進し、ライフサイクル全体に渡って自然環境の保護に貢献します。
- ⑥環境マネジメントシステムを推進し、従業員の環境教育や環境監査を実施し継続的な改善を進めます。
- ⑦良き企業市民として、地域の環境保全活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。



環境マネジメント体制

環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で環境管理責任者が環境に関する統括管理を行い、環境委員会の活動で会社全体での環境活動を行っています。産業廃棄物と省エネルギーについては専属部会を設置し、より一層の低減推進を図るとともに、各部会で連携をとり環境マネジメントを推進しています。また、ISO14001:2015年版に適合した活動を2017年1月から開始し、マニュアル類も全面的に見直して、より本業と密着した体制のもとで目標達成などに取り組んでいます。

■ 環境保全推進体制



内部環境監査

環境マネジメントシステム運用状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内で規定された監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上が図られているかを確認しています。また、運用状況が不適切な組織に対しては、追加監査を実施し、適切な活動になるよう是正を行っています。

外部環境審査

環境マネジメントシステムの運用がISO14001:2015年版に従って適切に行われているか確認するため、社外の審査登録機関である一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) に審査を依頼しています。2017年度は、1月より活動を開始したISO14001:2015年版への移行審査も合わせて実施しました。その結果、改善指摘事項は発見されず、移行を含めシステムが維持されていると判断されました。また総合所見として、目標展開において経営への影響度も考慮することの課題などが挙げられました。

2017年度 主要活動総括

イノアックにおける2017年度の主な環境取り組み結果は、下記表の通りです。エネルギー使用量については、引き続き設備等への断熱対策の実施などにより、目標未達ながらも前年比で使用量を削減することができました。廃棄物処理量については再資源化の推進を進めましたが、有価物市場が年々厳しくなっており目標未達となりました。PRTR対象物質の排出量については、CO₂発泡設備の導入による発泡剤の塩化メチレンの削減に加え、PRTR対象物質を含まない洗浄剤への代替化を進めたことにより、大幅に目標を達成することができました。

取り組み項目	2017年度活動方針・目標		2017年度活動実績	結果
エネルギー使用量削減	工場系サイト	原単位(使用量/生産金額) 337.2以下 〔使用量(原油換算値) 28,303kL(2016年実績)〕	原単位 348.5 〔使用量(原油換算値) 28,244kL(2017年実績)〕	🌳
	事務所系サイト	使用量(原油換算値) 92.9kL以下	使用量(原油換算値) 91.6kL	🌳
廃棄物削減	工場系サイト	原単位(処理量/生産金額) 5.45以下 〔処理量 4,634t(2016年実績)〕	原単位 6.48 〔処理量 5,254t(2017年実績)〕	🌱
	事務所系サイト	処理量 1,818kg以下	処理量 1,553kg	🌳
PRTR対象物質排出移動量削減	原単位((排出量+移動量)/生産金額) 2.67以下 〔排出量+移動量 187,930kg(2016年実績)〕		原単位 1.64 〔排出量+移動量 132,887kg(2017年実績)〕	🌳
環境改善活動	環境改善件数(全社トータル)1,046件以上		1,726件	🌳
環境コミュニケーション	CSRレポートの発行		発行	🌳

🌳 目標達成 🌱 目標未達成ながら進展 🌿 目標未達成

※主要活動総括の集計対象事業所は次の通りです。

(株)イノアックコーポレーション	安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店
(株)イノアック住環境	揖斐川事業所 (株)九州イノアック 菊池工場、浮羽工場、北九州工場
(株)テクノフォームジャパン	本社、埼玉工場 (株)九州カラーフォーム

環境法規制の順守

イノアックでは、事業活動に関連する環境法規制を特定し、日常管理を行っています。各事業所において、環境マネジメントシステムの一環として、騒音や産業廃棄物処理など法に基づく適切な対応ができているか、監視・測定及びその評価で、環境汚染の未然防止など環境リスク管理を行っています。今後も引き続き企業倫理にのっとり、環境法令順守の徹底はもとより自治体との環境保全協定等についても、厳正に順守していきます。

■ 当社の事業活動における主な環境関連法規

- 大気** 大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、ダイオキシン類対策特別措置法
- 水質・土壌** 水質汚濁防止法、浄化槽法、下水道法、土壌汚染対策法
- 騒音・振動・悪臭** 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法
- 化学物質** 化学物質排出把握管理促進法、毒物及び劇物取締法
- 省資源・循環** 省エネ法、容器包装リサイクル法、フロン排出抑制法、PCB処理特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 防災** 消防法、高圧ガス保安法
- 一般・その他** 工場立地法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法)、電波法

※地方公共団体の条例等については割愛 ※一部略称法にて表記

緊急事態の訓練

各事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、火災や設備などによる化学物質(油類・溶剤等)の漏えいなど環境汚染の予防及び拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。安城事業所では、2017年6月2日、11月30日に全体防災訓練を、それ以外に原料流出防止訓練や夜間避難訓練など、部門毎の特質に即した個別の訓練を実施しています。その他の事業所においてもそれぞれ非常時の訓練を行い、有事に備えています。



安城事業所/消防隊による放水



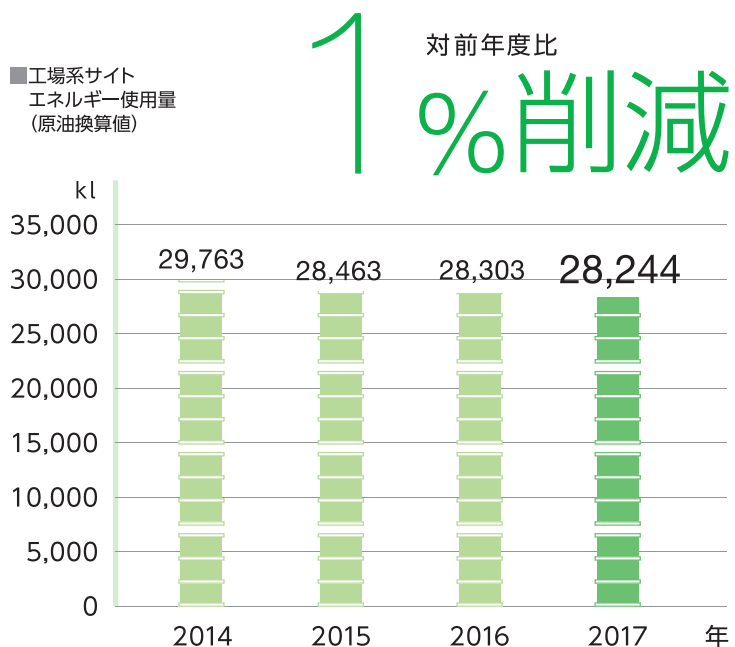
桜井事業所/初期消火の訓練



南濃事業所/原料漏えいの対処

エネルギー使用量削減

イノアックは、従来から地球温暖化防止のため、CO₂排出量の削減や省エネを推進してきました。具体的な活動としては、ボイラーやファンの排熱利用による乾燥機や部屋の暖房の効率アップ、工場屋根・ボイラー配管・キュア炉などの断熱対策の実施や、照明機器のLED化なども推進しました。2017年は、2016年比ではほぼ横ばい、2014年比では約5%の使用量(原油換算値)の削減となりました。



[取り組み事例]

2017年 省エネ推進 重点実施内容

- ファン排熱を室外へ排出(夏)、室内へ取り込み(冬)冷暖房効率アップ
- イノアック製断熱材「サーマックス」によるキュア炉の断熱
- 超音波式エア漏れ探知機によるエア漏れ対策
- ボイラー室のタンクへ保温ジャケットの取り付け
- 工場屋根のカバー工法による断熱
- コントロールスイッチによるLED照度管理
- カーテン間仕切りによる空調効率アップ
- ボイラー室の排熱を利用し乾燥機の電力削減



安城工場／工場屋根の断熱カバー



系列会社／タンク保温ジャケット取り付け



北九州工場／ファン排熱の排出/取り込み

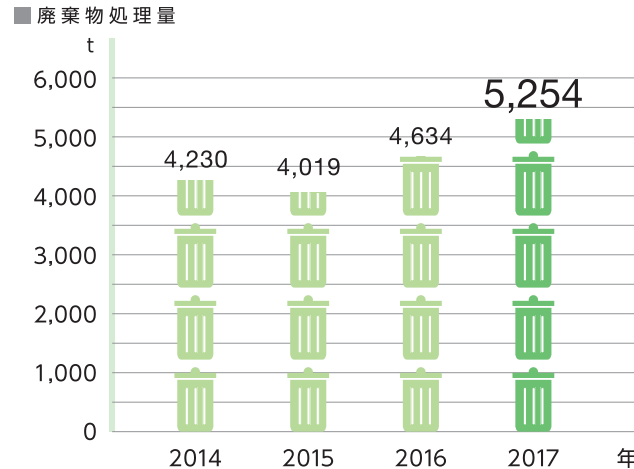
その他の地球温暖化防止の取り組み

イノアックでは、他にもさまざまな視点から地球温暖化防止に取り組んでいます。夏期にはサマーエコスタイルキャンペーンと題してクールビズをはじめとする従業員の節電対応の啓蒙を行っています。物流においても、共同輸配送(ミルクラン)、鉄道・海運へのモーダルシフト、物流拠点集約などの活動に取り組ん

でいます。また、環境省が推進している「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加しており、2017年度も夏至(6/21)と七夕の日(7/7)にグループ会社を含めた10施設で実施しました。

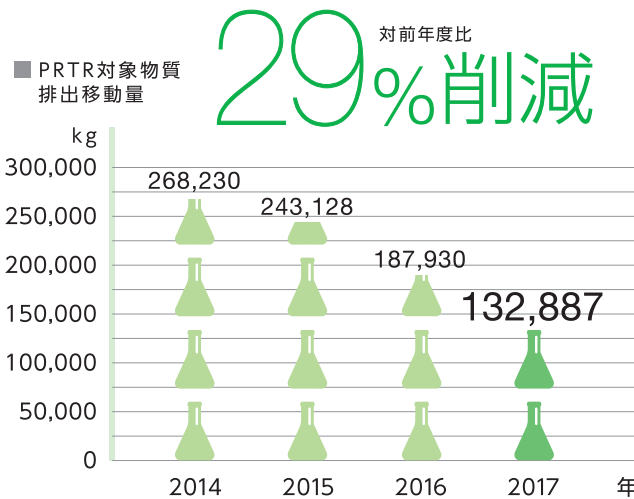
廃棄物削減活動

廃棄物削減活動については、全社廃棄物削減委員会を中心に、廃棄物削減事例の報告及び横展開や、不良削減や歩留まり向上によるロス低減、古紙の分別による再資源化といったリサイクル資源としての活用の拡大や、各事業所においてマテリアルリサイクルも積極的に推進しています。しかしながら近年は有価物(引取り)の市場が厳しくなっていることもあり、産廃として処理せざるを得ない状況も多くみられます。



環境負荷物質低減活動

イノアックではウレタンフォームの原料であるm-トリレンジイソシアネートや、塗装工程におけるキシレンやトルエンなどのPRTR対象物質を使用しています。それらの対象化学物質の取扱量や排出量の削減の取り組みとして、溶剤分の比率の少ない塗料(ハインリッドタイプ)の利用拡大や、ウレタン注入機の洗浄工程での1-ブロモプロパンの使用廃止などを進めました。こうした活動により、2017年は、2016年比では約29%、2014年比では約50%の大幅な削減を達成しました。



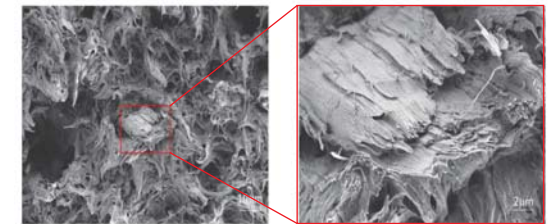
NCVプロジェクトへの参加

NCV (Nono Cellulose Vehicle) プロジェクトとは、軽量で高い強度を持つ次世代素材のセルロースナノファイバー (CNF) を自動車分野へ応用し、車両の軽量化による燃費向上、CO₂削減をめざして環境省が立ち上げ、京都大学を代表機関とした産学官の20以上の機関が参加しているプロジェクトです。イノアックコーポレーションは、立ち上げ当初よりこのプロジェクトに参加しており、成形性や各種物性などの評価を行い実用化をめざして取り組んでいます。

<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/ncv/>



CNF入り発泡PP樹脂成型品 (製品写真)



CNF入り発泡PP樹脂成型品の顕微鏡写真

※P14・15の環境データに関する集計対象事業所

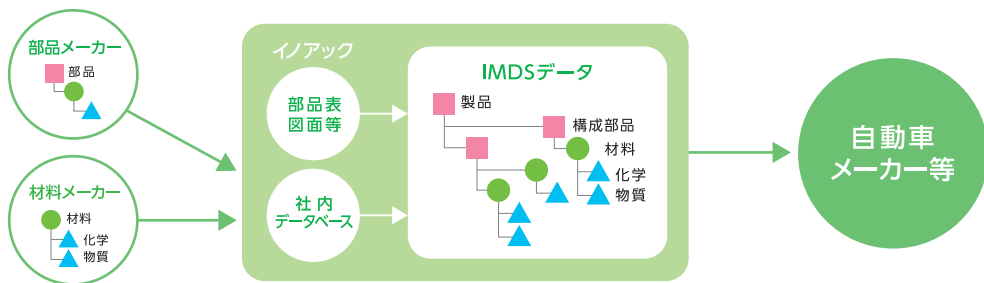
◎(株)イノアックコーポレーション/安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店

◎(株)イノアック住環境/揖斐川事業所 ◎(株)九州イノアック/菊池工場、浮羽工場、北九州工場 ◎(株)テクノフォームジャパン/本社、埼玉工場 ◎(株)九州カラーフォーム

IMDSやchemSHERPA等の利用促進

イノアックでは特に主力となる自動車分野において、IMDS^{*1}を利用した化学物質情報の登録および顧客への報告を行っており、サプライチェーンを通して必要情報を収集し、IMDS登録を行う管理体制を整えています。

■ イノアックにおけるIMDSの情報収集～報告の流れ、化学物質管理の仕組み



また、電機業界を中心に広く産業界で利用されてきているchemSHERPA^{*2}フォーマットによる情報収集や顧客への報告にも対応しています（従来使用されていたJAMPフォーマットからの移行を実施）。

※1 IMDS (International Material Data System)：欧州ELV指令への対応に端を発して開発された自動車業界における材料・化学物質情報を伝達・収集するインターネットを利用したデータベースシステム。

※2 chemSHERPA (ケムシェルパ)：経済産業省が主導して開発されたサプライチェーンにおける製品含有化学物質情報の伝達のための統一フォーマット。

社内データベースの構築

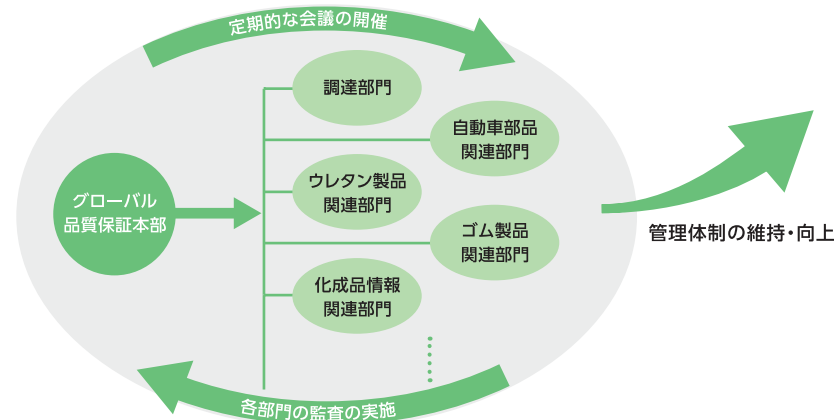
自動車部門では、購入部品や原材料に含まれる化学物質の情報を一元管理する社内データベースを運用しており、IMDSへの登録や環境負荷物質の含有調査において、作業の効率化や報告内容の精度向上に貢献しています。

グリーン調達基準の制定・運用

各種法規や顧客等により規制される化学物質や、含有量を把握して削減に努めるべき化学物質などをリスト化してグリーン調達基準として調達先に提示し、購入する原材料に含有する化学物質情報の把握に利用しています。

化学物質管理のコミュニケーション

環境管理に関する全社組織であるグローバル品質保証本部が主体となり、2か月に1回の頻度で各事業部の化学物質管理部門を招集して会議を開催し、グリーン調達基準の見直し、管理体制の確認や運用ルール制定、REACH規制やRoHS指令等の化学物質規制の最新動向に関する意見交換などを行うとともに、定期的に各事業部に対して管理体制の監査を実施し、適切で確実な管理体制の維持・向上に努めています。





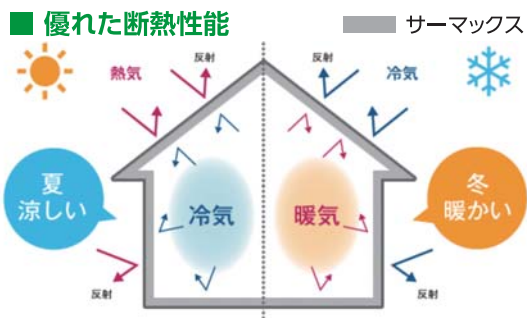
省エネ 断熱性と難燃性を両立する住宅用断熱材

サーマックス SW-G

近年、住宅において省エネルギーの意識の高まりから断熱材の需要が増しており、また大規模火災の多発もあって断熱性と難燃性を両立する住宅用断熱材の要求が高まっており、これに応えるべく「サーマックス SW-G」を開発しました。硬質ポリイソシアヌレート(PIR)フォームボードの「サーマックス SW-G」は、イソシアヌレート構造により表面に炭化層が形成され内部への炎の侵入を防止し、1200℃のバーナーによる5分間の燃焼でも形状を維持する極めて高い難燃性を有するとともに、優れた断熱性能も発揮します。



サーマックス SW-G



他の素材との性能比較

PF:フェノールフォーム XPS:押し出し法スチレンフォーム

	サーマックス SW-G	一般的なPIR	PF	XPS	繊維系断熱材
熱伝導率	○	○	○	○	△
防耐火性能	◎ 炭化・形状保持	△ 着火・燃焼	○ 炭化・分解	△ 溶解	○ 収縮変形
酸素指数	○	△	○	○	◎
防湿性能	◎	◎	○	◎	△

サーマックス SW-Gの燃焼の様子

6分でも貫通せず

燃焼前

15秒後

3分後

6分後

参考:一般的な断熱材の燃焼性

一般的なPIR...15秒で貫通

PF...5分40秒で貫通

XPS...5秒で貫通



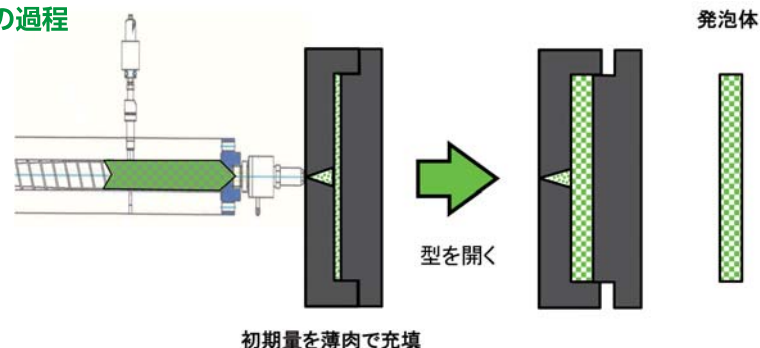
省資源 強度を維持しながら軽量化を実現した内装材

発泡インジェクション軽量デッキボックス

デッキサイドは、自動車のラゲッジスペースの両脇に設定され、パンク修理キット等の格納場所となっている部品で、従来は通常の樹脂のインジェクション成形品が一般的でしたが、化学発泡剤を混ぜた樹脂材料を使い、シリンダー内の熱によりガスを発生させて金型内へ充填した後に金型を少し開くことで高発泡させる方法により、同じ強度を維持しながらも約10%の軽量化を達成しました。また表面の意匠性のため塗装を必要とする事の多い発泡タイプでありながら、塗装レスで同レベルの意匠性を実現し、生産時の作業環境の向上にも貢献しています。



成形の過程





クリーン クリーンな超臨界発泡技術を用いた特殊樹脂素材

軽量・高反発 靴用部材「TURBOFLEXII」

「TURBOFLEXII」は、有害なガスを発生する化学発泡剤をいっさい使用しない超臨界射出発泡成形により製造される、低比重で反発弾性の高い特殊樹脂素材で、高性能スポーツシューズのミッドソールの踵部などに用いられており、例えばデサント社製バレーボールシューズ「SKY MID/SKY LO」に採用され、V・プレミアリーグで活躍する選手も愛用しています。



「SKY MID」

高反発と衝撃吸収力を兼ね備えた素材TURBOFLEXII

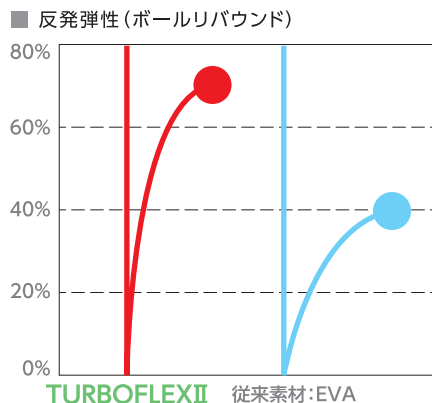


「TURBOFLEXII」は(株)イノアックコーポレーションの登録商標です。

従来品との性能比較

項目	単位	TURBOFLEXII	従来素材: EVA
密度	kg/cm ³	300	130
反発弾性	%	70	40
C硬度	°	53	48
圧縮永久歪	%	49	71

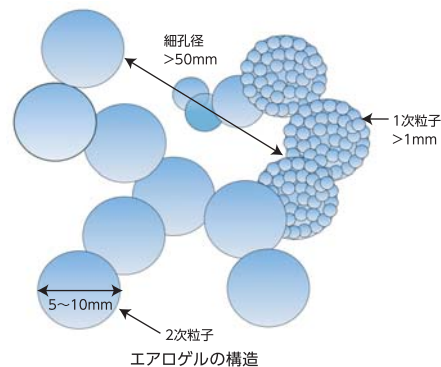
※上記数値は、代表値であり保証値ではありません



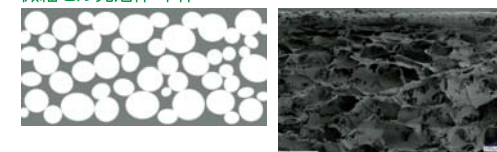
省エネ 高い断熱性を持ちながら加工性・柔軟性にも優れる複合材

次世代断熱材「フレキシブルエアロゲル」

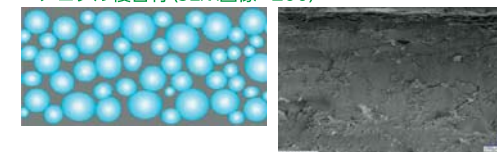
エアロゲルとは、低密度で空隙率の高い多孔質の乾燥ゲル体で、ゲル単体では非常に脆いため、製品(断熱材)化にあたっては不織布基材に含浸させるなどの必要がありますが、使用時のゲルの脱落(粉落ち)や断熱性が十分でないといった弱点がありました。微細セル構造を有したスキン層付き特殊発泡体と複合(セルに充填)させることで、粉落ちが極めて少なく、高い断熱性を持ち、加工性・柔軟性にも優れた製品となり、今後、自動車や建材などさまざまな分野への利用が見込まれます。



微細セル発泡体 単体



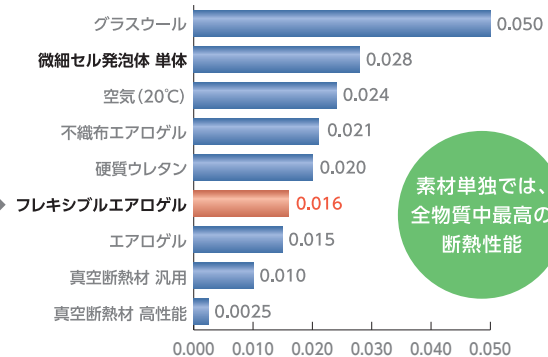
エアロゲル複合材(SEM画像×200)



断熱性

項目	単位	断熱性	
		発泡体単体	エアロゲル複合材
厚み	mm	1.75	1.75
見掛け密度	g/cm ³	50	200
熱伝導率	W/m·K	0.028	0.016

熱伝導率



素材単独では、全物質中最高の断熱性能

お客様からの評価・受賞

イノアックは素材プロセスマーカーとして、マーケットが必要とするかたちに素材をイノベーションすることで、そのニーズに柔軟に対応してきました。お客様課題解決に向けてのさまざまな取り組みは、2017年度も国内外の多くのお客様から評価をいただいています。

国内では化成品情報事業部で「プレミアムパートナー」に7年連続で認定いただいております。自動車関連事業部では「技術開発賞」「旧型補給部品種類削減推進優秀賞」「原価部門優秀賞」「東北ものづくり貢献賞」や新型車種の内装における貢献、VA・VE提案などを評価いただきました。またベトナムIPVでは遅延なく良品を納入し「デリバリー賞」を受賞しました。タイIATでは天井アッシー工程のTPS※活動やサービスパーツの物流納期100%達成や塗装工程の安全改善活動を、台湾KICでは納入不良ゼロ件達成を評価いただきました。中国IESでは「品質達成賞」「原価協力賞」を、IHAでは「梱包デザイン優秀賞」、DIMEでは「(品質)優秀サプライヤー賞」「環境(E)品質(Q)原価(C)納期(D)感謝賞」、DIMEIIでも「原価削減協力賞」「品質協力賞」などを、そしてDIPでは長期にわたるサポートへの「感謝賞」を受賞しています。

※TPS:Toyota Production System (トヨタ生産方式)



中山CANON様よりEQCD感謝賞



HARADA INDUSTRIES VIETNAM様よりデリバリー賞



裕隆日産汽車(股)有限公司様より品質優良賞



トヨタ自動車東日本(株)様より東北ものづくり貢献賞



スズキ(株)様よりVA・VE提案賞

品質向上の取り組み

イノアックグループの品質方針は『顧客に信頼されるモノ作り』です。当社方針を確実に実現するため、重大クレームの未然防止活動、品質マネジメントシステムのレベルアップ、基盤となる従業員一人ひとりの人材育成を重点に、様々な品質向上活動を行っています。

日々PDCA※サイクルを回し、お客様に満足いただける品質の提供を第一に努めています。

※PDCA:Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)

[取り組み事例]

重大クレーム未然防止活動

社会的信用の失墜と多額の保障金により、会社の存続が危ぶまれるような品質不具合を未然に防ぐ事を目的とし、国内・海外の生産拠点に対して、重要品質商品監査、公的認証監査、客先取決め実施状況監査等、さまざまな視点で監査・指導を実施し、品質力向上に努めています。また、新技術・新材料・新プロセス・新用途のいずれかに該当する新製品については、上市前にDR※を実施し、重大不具合の未然防止に努めています。

※DR:デザインレビュー

品質革新(自動化 IoT導入)

製造現場での自動化を展開し、働く人に「優しい」、「安定した品質」、「効率良い」生産ライン構築に取り組んでいます。画像処理、レーザー技術を活用した外観検査にも積極的に取り組み、検査員の「負荷軽減」とお客様への品質保証強化にも努めています。また、工場のIoT導入も推進して、生産プロセスでの状況をリアルタイムに把握すること、データに基づいた機械故障や製品不具合の兆候管理の実現をめざしています。



調達基本方針

① グローバル調達活動の推進

イノアック国内外の拠点を活用したグローバルな調達活動と、お取引先様との関係の強化を図ります。

② 法令・社会規範および社内規程の順守

法令・社会規範および社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。

③ 公平・公正で誠実な調達活動の推進

お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。

④ 環境・人権に配慮した調達

イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行います。同時に紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)など、人権・社会問題の原因となりうる原材料の使用については、影響に配慮した調達活動を行います。

⑤ お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築

お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、相互に技術力および品質の維持・向上に努めます。

グローバル拠点における最適調達の実施

原材料、部材等の現地調達を通じて事業拠点の所在する国々に貢献し、最適品質・最適価格に加え、長期的な取引を念頭に入れたお取引先様との良好なパートナーシップをめざします。またグローバル生産に対応した、より戦略性の高い調達活動を推進します。

お取引先様とのパートナーシップ強化

お取引先様約80社と共にイノアック協力会を組織し、さまざまな活動に取り組んでいます。講演会を通じたコンプライアンスやリスクマネジメント等の啓蒙活動、また分科会での活動内容について、お取引先様代表にグループ全社の発表会にて発表いただくなど、相互の企業レベルを向上することに努めています。



グリーン調達活動の推進

年々厳しくなる環境規制への対応を進めるため、「イノアックグリーン調達基準」を制定し、地球環境に配慮した調達活動を推進しています。また、調達物流の改善として積載効率の向上などの検討に取り組み、環境負荷の低減にも努めています。

紛争鉱物への対応

コンゴ民主共和国およびその隣接国など紛争が絶えない地域において産出される鉱物が、人権侵害、環境破壊、汚職など、不正に関わる組織の資金源になっている、いわゆる紛争鉱物問題に対し、そのような鉱物を使用しない方針の下、お取引先様各社と連携し情報開示に努めています。

社会・地域貢献活動①

イノアックグループではさまざまな機会を通じて技術支援、人材育成、文化支援などを実施し、社会や地域への貢献活動を推進しています。また地域の人々との交流にも積極的に取り組んでいます。

ポリウレタン国際技術振興財団

ポリウレタンの用途は、生活用品から物流、自動車部品、情報機器へと多方面にわたり多様な展開を遂げています。ポリウレタン業界は、今後も産業の発展に大きく貢献することが期待されると同時に、安全・環境・グリーン・エコロジー・省エネなどの環境問題に直面しており、地球環境保全といった社会的な要請、課題に業界全体で応えていく必要があります。当財団は将来のポリウレタン産業の発展のため、ポリウレタンの研究の更なる発展、人材の育成をめざし設立されました。2014年の設立以来、海外からの活発な研究助成申請にも支援しております。



イノアック国際教育振興財団

1950年代からグローバルに事業を展開してきたイノアックは、世界で活躍できる人材の育成を目的に「イノアック国際教育振興財団」を1987年に設立。国内外の優秀な学生の日本留学・海外留学に奨学金を給付し、これまで支援を受けた学生は300名を超えます。



イノアック・イノベーションサポート

長年にわたり、文化支援活動「イノアック・イノベーションサポート」を実施。バレエやオペラ公演への協賛など多岐にわたります。公演活動への協賛は文化振興の一助となるほか、社会とイノアックの結びつきを一層深めてくれます。



社会・地域貢献活動②

海外

INOAC POLYMER LANKA (PVT) LTD. (スリランカ)

INOAC LANKA (PVT) LTD.

2017年5月、スリランカ南西部は記録的な豪雨に見舞われ甚大な被害が発生しました。洪水被災地域への救援物資を提供するとともに、被災者の健康診断を実施しました。また8月には、工場近隣の病院に2回目となる自社製品のマットレスを寄贈しました。



INOAC POLYMER VIETNAM (ベトナム)

年2回日本の大学生2名をインターンシップで受け入れ、軽作業実習を行いました。在外企業での実習を通じて、社会勉強の機会を提供しています。

INOAC VIETNAM CO., LTD. (ベトナム)

年2回各2週間、日本の大学生をインターンシップで受け入れ、ベトナム人社員と実践的な仕事を体験する機会を提供しています。国際感覚を養い、将来グローバルに活躍する人材育成に貢献しています。

INOAC AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

7月にウォラナット寺院のランタンフェスティバルにろうそくとランプを寄付しました。8月には代表がブーンチュウの児童施設を訪問し、お金と物品を寄付しました。同じく8月には従業員有志がチョンブリー赤十字に献血をしました。



国内

安城事業所

七夕と年末に毎年バザーを開催し、自社製品の即売会やイベントを通じて近隣住民とのコミュニケーションを図っています。また安城七夕祭りに協賛し、親善大使を受け入れています。清掃活動や職場体験学習の受け入れ、防犯パトロールなども実施しています。



桜井事業所

中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップでは労働の尊さを実感することを目的に学校行事の一環として自動車の組付部品のピックアップと最終組付などを体験してもらいます。他には年末バザーの開催や週1回清掃活動も継続しています。



南濃事業所

事業所の所在地である岐阜県海津市夏祭りの花火大会に毎年協賛しています。また中学生の職場体験と高校生のインターンシップを毎年受け入れており、体験学習を通じて望ましい勤労観と職業観を育成し、協調性を養う一助となっています。

女性社員の登用

イノアックでは、女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうために、積極的に活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性管理職候補者向けに「女性活躍推進セミナー」を毎年開催し、女性社員の意識改革、キャリアアップを図っております。また、男性管理職向けに「女性活躍推進セミナー」も毎年開催し、女性社員の活躍を後押しできる体制づくりを行っています。

■ 女性管理職昇格数（※(株)イノアック技術研究所を含む）

2002 ~ 2007	2008	2009 ~ 2011	2012 ~ 2016	2017
1	2	1	1	0

単位：人数

女性管理職
昇格数合計
8人

女性活躍推進法施行に伴う取り組み

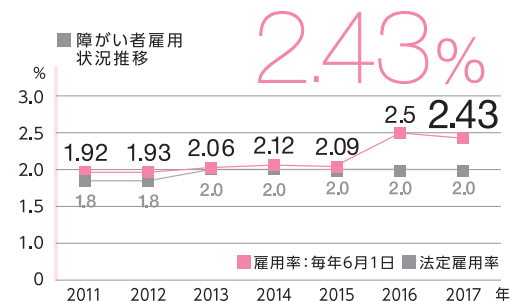
2016年4月女性活躍推進法施行に伴い、2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間、女性が多く部署で能力発揮・キャリア形成できるように下記3つの目標を掲げ、女性活躍の推進に取り組めます。

目標

- 1 女性係長の割合を男性と同率とすることをめざし、今期は係長への昇格資格をもつ女性社員のうち、10%を係長にすることをめざす。
- 2 女性管理職登用者を発掘するために、中堅社員研修や係長研修等の受講生の女性割合を10%とする。
- 3 管理職の年次有給休暇取得率を一般職の年次有給休暇取得率と同率にする。

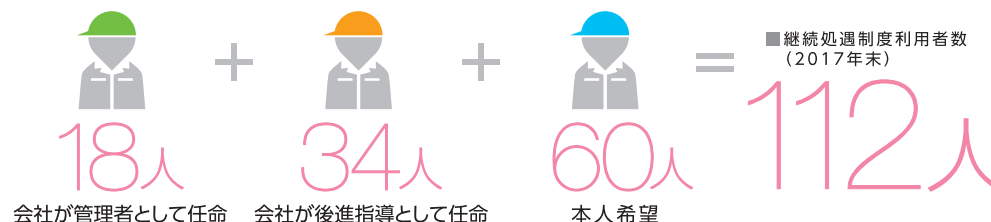
障がい者雇用

すべての人の可能性を広げる社会の実現をめざし、障がい者を積極的に雇用しております。障がい者を雇用する事により、従業員の周囲に対する気配りが生まれ意識が向上しました。



継続処遇制度の利用者

2015年1月から継続雇用の賃金形態を増やし、責任者としてやりがいを持てる制度を導入し、積極的に高齢者のキャリアを有効に活用できる環境づくりに取り組んでいます。



海外からの受け入れ

海外現地法人で働いている外国人を日本のマザー工場へ派遣し、技術習得やスキル向上のため「研修生」として受け入れ、人材を育成しています。日本で身につけた知識・経験を海外へ持ち帰って活用することにより、現地化の促進、ノウハウのグローバル伝承に繋がっていきます。また、海外現地法人からも「技能実習生」として受け入れを行っています。日本にて一定期間、特定の生産現場で作業をしてもらうことにより、帰国後の現場改善活動に寄与してもらっています。こうした取り組みを通して、グループの一員として自覚をもつと共に、イノアックファンになることを期待しています。

社員教育

グローバル人事総務部では、イノアックグループの従業員の能力を高め、成長できる場を提供するための『社員教育』を企画・実施しています。社員教育は、毎年、年間計画を立案し、社内掲示板にアップすることで、全社員がいつでも閲覧できます。また、社員自らが希望する研修や、上司が部下に受講をさせたい研修を、一年間を通じて計画できます。

階層別教育

人間的魅力、社会人としての常識、精神面など心の自立をめざす[人間性教育]と将来必要とされる能力育成をめざす[能力アップ教育]を行っています。役職に就いた時に受講する「節目教育」は、課長、新任基幹職、係長、班長、中堅というクラスがあり、全国から同クラスのメンバーが集まり、同じ課題に取り組み、宿泊研修を通じて人脈づくりにもなります。

部門別専門教育

業務に必要な基礎知識や専門知識、技能の習得をめざす教育を行います。各部門からの研修ニーズを吸い上げ、それに見合った研修カリキュラムを企画します。

『営業部門』・・・初級、中級、上級の3つのレベルで、各々の営業力強化を図る研修

『技術部門』・・・中堅クラスの底上げを図る、プレゼンテーション力、コミュニケーションスキル研修など

『製造部門』・・・「モノづくり」の基本・基礎教育の拡充



グローバル人材育成

イノアックグループには、海外に50を超える事業所(工場、事務所)があります。今後、ますます進むグローバル化(ボーダーレス化)に対応できる人材を育成するために『グローバル人材育成』にも力を入れています。『グローバルマインドセットセミナー』では、従業員のグローバル意識の改革を促し、若い時から『海外研修』や『短期海外出張』を通じて、海外(グローバル)を体感できるような教育をしています。また、海外に赴任する際、駐在先で困惑しないように、先輩駐在者の経験談を交えてさまざまな単元を勉強する『海外赴任前教育』を充実し、海外駐在候補者や駐在予定者を計画的に教育する体制を整えています。

ハラスメント防止

イノアックでは、社内のハラスメント対策として、以下のような施策を行っています。

① 会社方針宣言と公開

イノアックでは、セクハラ、パワハラなどのハラスメントに関する会社方針を宣言

② 相談窓口の設定

職場におけるハラスメントに関する相談窓口を、全国各地(エリア毎)の人事総務部に設定しています。また、女性専用の窓口や、労働組合側の窓口も設定してあります。

③ 社内実態調査

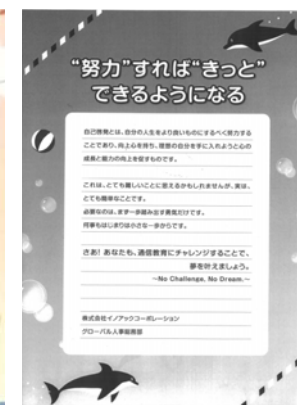
年1回「パワーハラスメント調査(アンケート)」を全社員対象に実施し、現状把握に努めています。

④ ハラスメント教育

イノアックの全管理職に「ハラスメント講習会」を受講必須としています。

自己啓発

従業員の自己啓発学習を補助するために『通信教育制度』があります。コース修了後、通信教育の受講料を半額会社負担(還付)する制度です。毎年、100を超えるコース(講座)を設定し、『通信教育ガイドブック』を従業員に配布します。年間100名程度の受講者がいます。



安全の理念と基本方針

- ① 安全は、企業存立の基盤である。
- ② すべての事故、災害は防止できる。
- ③ 安全は、全員の自覚と責任ある行動で達成できる。

上記の安全の理念に基づき、「安全は全てに優先する」を行動で示し、危険を予知して「止める、呼ぶ、待つ」の実践を定着しています。厚生労働省の運動行事や、過去の災害に学んだ月度重点実施事項を年間活動計画として定め、教育訓練の繰り返しと安全衛生防災活動評価による弱点の改善で、全拠点の安全衛生防災管理レベルの向上を図っています。

全社安全衛生委員会の開催

トップ自ら行動し全員参加で取り組む安全活動として、

- ◎中央安全衛生委員会…年4回
- ◎役員による現場点検…年2回
- ◎安全衛生実務担当者会議…年6回
- ◎各拠点安全衛生委員会…毎月

上記により全社の安全・衛生・防災意識の向上と、組織風土づくりおよび再発防止の安全集会を開催しています。



トップによる安全巡視

健康増進に向けた取り組み

管理監督者が率先垂範するよう、知識とスキルの向上を図っています。

- ◎メンタルヘルス、ハラスメントの相談窓口を設置
- ◎分煙化の徹底として、屋外喫煙室を設置
- ◎環境対策として路面温度の低減
- ◎産業医、健康保険組合による学習・指導会を開催
- ◎熱中症対策



遮熱性舗装
(赤外線を反射して路面温度を下げる)

安全実務担当者安全総会の開催

1. 2017年度の総括

- ①安全衛生防災活動の活動報告
- ②イノアックグループ災害統計と分析
- ③通達事項・安全衛生法改正

2. 労働災害防止の教育・啓蒙活動として

- ①労働災害再発防止の取り組み
 - ・九州地区、東北地区(テレビ中継)
 - ・安全衛生標語かるた取り

3. 2018年度の方針

- ①2018年度の安全衛生
防災活動の説明
- ②労働組合からの提案事項



安全総会

安全道場で安全な人づくり

安全道場は15の体感機で『目で見て、耳で聴き、体で感じる』安全体感を体験する事により、従業員が作業中に起こりうる「危険を安全に」体感してもらいます。それにより危険感受性を高め、危険予知能力を磨き、確実に安全行動に取り組む姿勢を身につけ、災害ゼロを達成できる職場作りに取り組んでいます。



安全道場

防災活動

危機管理規定に基づき行動し、自然災害などによる被害を最小限にとどめ、的確な初動対応と早期復旧を図ります。

1. 大規模地震災害

- ◎建屋と設備の地震減災対策
- ◎地震発生時の安全防災備品と備蓄品の備え
- ◎地震災害発生後の対応
- ◎地域への貢献としてマットレス等の備蓄

2. 火災・風雨水害対策

- ◎生産現場の火災・防爆予防
- ◎風水害対応備えと体制の確立
- ◎気象情報配信システム

"W-info"の導入

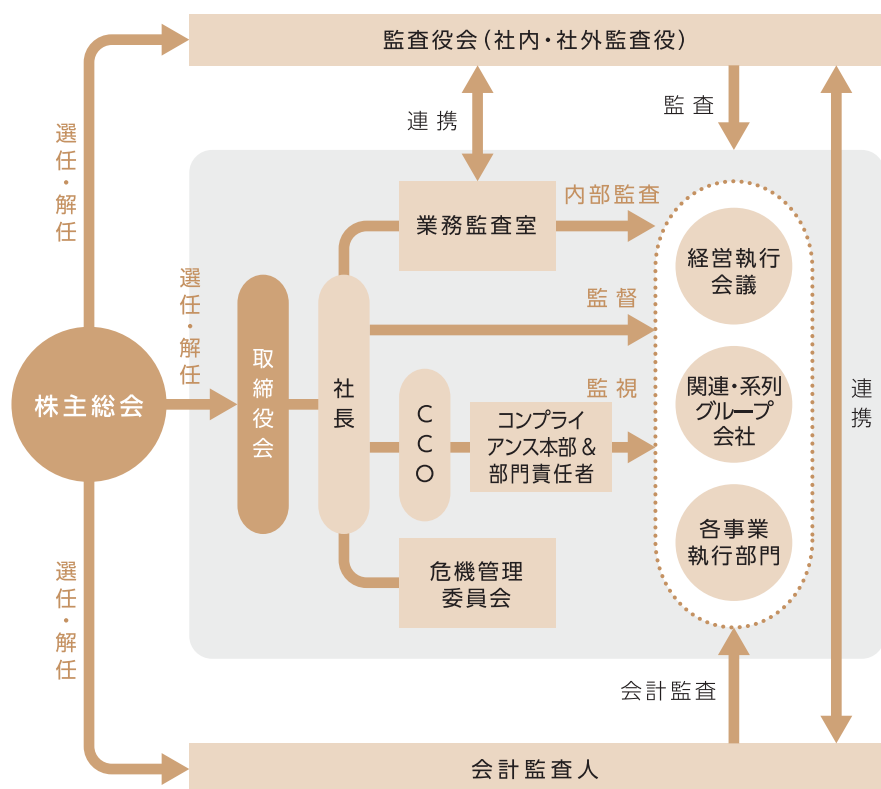


W-infoの導入

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックは企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるために、コーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けています。

■ コーポレートガバナンス体系図(組織系統図)



[コーポレートガバナンス体制]

取締役会

取締役会は7名で構成されており、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督に当たっています。

執行役員制度

経営に関する監督責任と執行責任を分離するため、執行役員制度を導入しています。取締役会より執行権限を移譲された執行役員が、事業部・グループ会社・主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。

監査役会

監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。監査役は、取締役会等社内の重要な諸会議に出席するほか、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

[内部統制システム]

職務の執行内容を法令および定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制と、「企業行動規範」の全社員への教育。

情報管理

文書管理規程により、各文書の保管部署・期間を定めた管理。

企業集団としての管理体制

関連・系列会社においては、関連会社管理規定を制定。業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じ監査役による監査を実施。

リスク管理

各種リスクに対し経営執行会議でマネジメントしており、必要に応じ危機管理委員会を開催。「マイナス情報ホットライン」の常設による、リスク情報の早期入手と対応体制を確保。

コンプライアンスにおける 基本的な考え方

イノアックでは、コンプライアンスとは法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動することと考えています。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待に応えていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。

コンプライアンス教育の実施

社内規程等の整備にとどまらず、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、イノアック各拠点の営業担当者、調達担当者、新入社員、中途入社社員へのコンプライアンス意識教育を実施しています。他社のコンプライアンス違反事例を題材に、自職場での問題を想定したケーススタディや、日常業務を行う中での疑問点についてのディスカッションを行い、個人の法令順守意識の向上を目的としています。

相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのためイノアックでは、法務グループおよび外部弁護士事務所を相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けないよう体制を整えています。

コンプライアンス・倫理プログラムの導入

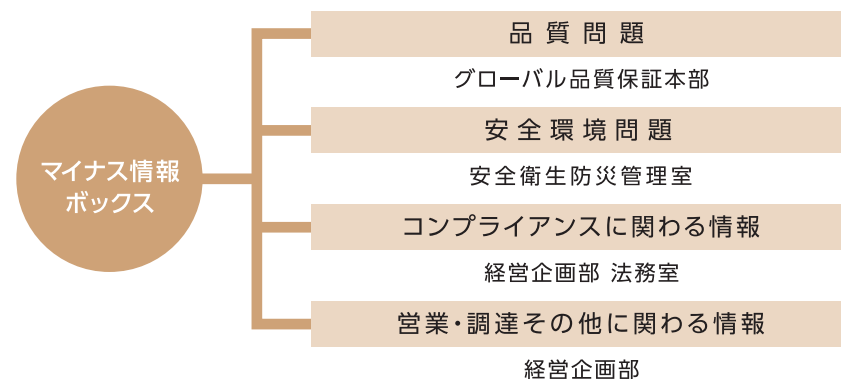
コンプライアンス・倫理プログラムを導入し、東京本社にコンプライアンス本部を設置しました。その統括責任者としてチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命、加えて国内および海外の各地域、拠点ごとにコンプライアンスオフィサーを、さらに各部門単位においてもコンプライアンス担当者を任命、配置しました。社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンス意識向上のための体制づくりを行っています。

内部監査の実施

コンプライアンス、リスク管理、遵法等の観点から、各部門および国内グループ会社を対象に、実地監査を実施しています。実地監査の結果、業務改善の必要性のある項目に関しては、継続的にフォローアップを行い、イノアックグループ全体のガバナンス向上に努めています。

マイナス情報ボックスの設置

コンプライアンスに関わる情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には、迅速に対応し問題の拡大を防ぐため、マイナス情報ボックス（受付窓口）を設置しています。



【お問い合わせ先】

株式会社 **イノアック コーポレーション**

<https://www.inoac.co.jp/>

経営企画部企画室

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号

TEL : 052-581-1086 E-Mail : pr@inoac.co.jp

グローバル品質保証本部

〒446-8504 安城市今池町3丁目1番36号

E-Mail : GQ_system@inoac.co.jp